

「もの」から見る人間の社会と文化

— 贈りものの人類学 —

インターネットや携帯電話で瞬時に情報を入手し、相手と交信できる今日、人と人の心や気持ちをどれほどの確に伝えることができるだろうか。私たちは言葉を交わすだけでなく「もの」を贈り、交換することによって相手との友情を確かめあっている。

世界の民族社会においては、われわれの眼からすると、不思議で非合理的な贈与交換がおこなわれている。「まごころ」のこもった贈りものは相手をひきつける宝物。贈りものの意味と「魔力」をさぐってみよう。



小林 繁樹

国立民族学博物館・文化遺産研究センター教授

「オセアニアの人間関係を
つむぐ石と貝の宝物」

オセアニア社会では、石貨、貝貨、歯貨、羽毛貨、樹皮布や織物が贈りものとして人の手から手へとわたり、友好の輪を広げている。実用的な価値のない貝の首飾りや腕輪を求めて男たちはなぜ命がけの航海をするのだろうか。

岸上 伸啓

国立民族学博物館・先端人類科学研究部教授

「北アメリカ北西海岸先住民
のポトラッチ」

カナダ北西海岸の先住民のあいだでは、ブランケット（毛布）、銅板、燻製食料などを結婚式や葬式のために大量に贈る。贈り主と受け手は、その贈りものとお返しとの量と質を競い、勝者が高い地位を得るといふポトラッチとは何だろうか。

杉本 星子

京都文教大学・人間学部教授

「インドの結婚と花嫁の豪華
な持参財」

インド社会では、高位の家族間の結婚には、花嫁が金の装飾品、高価な金属製品、サリーや高額な現金を持って嫁ぐ。花嫁は女神とみなされるのに、どうしてこんなに持参財が必要なのだろうか。

司会 須藤 健一

神戸大学大学院・国際文化学研究所教授

2007 9/29 (土) 13:30 ~ 16:30 (12:30 開場)

場所: 神戸国際会館
8階、2・3号会議室

参加対象: 高校生・大学生・成人一般 *参加無料

問合せ先

日本文化人類学会事務局

tel. 03-5232-0920 mail. hoya@jasca.org

